

令和6年6月30日

佐賀県県民協働課長 様

住所 佐賀県唐津市京町1783

団体名 特定非営利活動法人ダイローク・シヤパン・ソサエティ

代表者職・氏名 代表理事 志村記世江

電話番号 080-5022-5925

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和5年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団体名 : 特定非営利活動法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ
- 2 事業実施期間 : 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

ダイバーシティと言う言葉が不要なほど、個々人の特性・特徴が尊重され、自然に受け入れられている、インクルーシブ・ソサエティを実現。そういった社会に住む県民の人々は、安心安全な環境の中、人に優しくし、自分を大切にし、健やかで豊かな生活を営んでいる。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

【以下、計画書への記載内容】
佐賀県の子どもたちが、ダイアログのプログラム（視覚に障害のある人たちとのエンターテインメント交流プログラム）を経験することにより、①本質的なダイバーシティについての学びを得る、②他者への共感性・思いやりの気持ちを涵養すると同時に自己肯定感を向上させることができる。超短期的なプログラムにもかかわらず、こうした効用が得られるのは、このプログラムの非常に大きな特徴であり、佐賀県の次世代育成に非常に大きな便益をもたらすと確信している。

【結果】
計画通り、今期も継続的に佐賀県在住の子どもたちに、視覚・聴覚障害者との交流プログラムを経て、本質的なダイバーシティの学び、情動的能力の向上に資することができた。

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

【以下、計画書への記載内容】
将来、上記のモデル（視覚障害者とのエンターテインメント交流プログラムの実施→費用対効果の高い情動教育効果を実現）を「佐賀モデル」として、日本の次世代の情動教育を発展させるプログラムとして日本全国に展開していきたい

【結果】
実現はまだだが、微力ながら活動を継続していくことを通じて、将来的には上記の社会像の実現を目指したい

- 5 寄附金活用事業実績 : (別記1)
- 6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)
- 7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記1) 寄附金活用事業実績

○寄附金を活用して行った事業（GCFを行った場合は、GCF名とその内容を記載）

事業名	具体的な事業内容 ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所	事業費の 支出金額 [単位：円]	うち寄附金 活用額 [単位：円]
ダイアログ・イン・ザ・ダーク	①子供の情動教育 ②小学生～高校生 ③障害者理解のためのオンラインワークショップの実施（および開発事業）	①年間通じて継続実施 ②唐津市・東京都	2,552,096	2,552,096
ダイアログ・イン・サイレンス	①子供の情動教育 ②小学生～高校生 ③障害者理解のためのオンラインワークショップの実施（および開発事業）	①年間通じて継続実施 ②唐津市・東京都	6,407,110	6,407,110
計			8,959,206	8,959,206

OK = 「(別紙3) 寄附金活用額」の【支出】(内訳)「事業に活用した寄附金額・・・a」の額

(別記2) 次年度繰越活用見込み

○次年度に繰り越した寄附金の活用見込み

事業名	具体的な事業内容 (予定) ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所 (見込み)	事業費の 支出見込み額 [単位:円]	うち寄附金 活用見込み額 [単位:円]
ダイアログ・イン・サイレンス	①子供の情動教育 ②小学生～高校生 ③障害者理解のためのオンラインワークショップの実施 (および開発事業)	①年間通じて継続実施 ②唐津市・東京都	4,000,000	917,030
計			4,000,000	917,030

OK = 「(別紙3) 寄附金活用額」の「佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額」の額

